

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870600362
法人名	社会福祉法人 回生会
事業所名	グループホーム 福寿
所在地	愛媛県西条市飯岡3381番地の1
自己評価作成日	平成25年10月20日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成25年11月14日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・同一敷地内に病院、老健、ユニット型特別養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、デイサービス、ヘルパーステーション、ケアハウス等があり毎週連携会議を行い、情報交換をしている。</li> <li>・ユニットで行事したり、お互い協力しながら、連携を図っている。</li> <li>・法人全体として、音楽療法を実施し、各ユニット週2回音楽療法士によるプログラムを実践し、利用者様から好評を得ている。</li> <li>・訪問看護師が定期的に来てくれ、利用者様の健康管理をしてくれている。</li> <li>・緑と自然に恵まれた環境の中で、ゆったりと時間が流れている。</li> <li>・防災対策に取り組んでいる。（ヘルメット設置、衛星電話、非常発電装置等）</li> </ul>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>ユニット個々の玄関には、ポインセチアや観葉植物、お花を飾っておられる。事業所がある法人の敷地の周りには田畑が多くあり、イネや野菜が育つ様子が見られ、季節を感じることができる。事業所の菜園には、ブロッコリー、キャベツ、白菜やサツマイモが植えられており、ユニットによっては、居間から菜園が見える。事業所では、プードル犬を飼っておられ、犬を抱っこすることで気持ちが落ち着くような利用者もいるようだ。</p> <p>年2回、法人介護施設の「地域交流センター」で家族会を開催されている。今年5月の家族会時には、すべてのご家族が参加されて、管理者から「医療連携体制」についての説明をされた。又、あわせて重度化対応・終末期ケア対応指針についても説明された。家族会では、みなに一言ずつでも意見等を発言していただけるようお願いされている。「職員の名前がわかりにくい」とのご家族の意見で、玄関に職員の顔写真と名前を掲示するようにされたり、毎日来訪される方から「面会簿の用紙を検討してほしい」と意見があり、簡単に記入できるような様式に見直された。お話のあとは、ユニットごとに分かれて、利用者のご家族でたこ焼きを作り、おやつを食べながら過ごす時間を設けられた。</p>
---

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらいが					
		3. 利用者の1/3くらいが					
		4. ほとんどいない					

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム 福寿

(ユニット名) B 棟

記入者(管理者)  
氏名 高橋 早智子

評価完了日 平成 25 年 10 月 28 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「一人ひとりのしあわせ・やすらぎづくり」という福寿の理念と、事業所全体の理念を事務所・玄関に掲示し、毎朝唱和して職員全員で共有している。 (外部評価) 法人の理念とともに事業所理念を居間や事務所に掲げておられ、毎日の朝礼時に職員で唱和されている。管理者は、理念の実践に向けて「利用者が何を望んでいるか、何をすれば喜ばれるかを考えてケアしましょう」と職員に話しておられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 併設施設の真ん中にあり、地域に出かけることは難しいが併設施設、病院を訪問する方々や、病院の患者様とご家族が散歩時、立ち寄ってくれたり、盆踊り・芋たきなどの行事を通じて地域の方々と交流を図っている。 (外部評価) 法人のデイサービスに通われる地域の方が立ち寄られたり、法人の託児所の子供達が散歩時に花壇の花を見に来て、利用者とふれ合うこともある。地域の高校生が授業の一環で来られた際には、畑の世話を手伝ってくれたり、利用者と一緒に折り紙やゲームをして過ごされた。その後も、遊びに来てくれることがあり、「将来、福祉の仕事に就きたい」と話された生徒もいたようだ。管理者は、地域主催のミニデイで「認知症とは」「グループホームとは」等について、お話をされたこともある。現在、地域の幼稚園に、事業所に訪問していただけるよう依頼をされている。	事業所は、法人の敷地内に位置するグループホームで、地域との日常的な交流には難しい面もあるだろうが、地域の情報等も得ながら利用者が地域に出かけて行くような機会を積極的に作り、今後さらに、地域と利用者とのつながり作りに工夫して取り組まれてほしい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 事業所として、ミニデイなどに出かけていき、地域との交流を深めるよう取り組んでいる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議は2カ月に1度開催し、ご家族・地域代表・行政、事業所からは施設長・居宅介護事業所職員などが参加し、利用者の近況報告・健康状態・事業所の取り組みなどについて説明し、意見交換している。改善点があれば検討し改善している。</p> <p>(外部評価) 会議には、ご家族、民生委員の方、市の担当者等が参加されており、法人介護施設の「地域交流センター」で開催されている。ご家族は、各ユニットから2名ずつ、4名の方が委員として参加されている。事業所から、利用者の状況や行事等を報告して、ざっくばらんに意見交換できるよう取り組まれている。管理者が、医療体制加算について説明されたり、法人の音楽療法士の協力を得て、「音楽療法について」の勉強会を行ったこともある。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 市役所を訪問したり、電話等でアドバイスして頂いている。また、成年後見制度や生活保護についても、担当職員からアドバイスして頂いた。</p> <p>(外部評価) 地域包括支援センターの担当者の方が運営推進会議に参加していただき、「家族会の出席率が良く感心する」「よく感染症の予防に心がけている」等、感想を話して下さっている。月に一回、介護相談員の訪問があり、利用者とお話しながら生活の様子等を聞いてくれている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 法人内の研修会に参加したりなどして、理解を深めている。また、日頃から職員間で身体拘束について話しあっている。</p> <p>(外部評価) 法人内の研修会のスケジュールの中には、身体拘束について勉強する機会もある。同じ内容の研修が合計3回行われており、すべての職員が研修を受講できる仕組みが作られている。以前、転倒して骨折された方には、もしもに備えて、ベッドの傍らに夜間はマットレスを敷くようにされている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 法人内の研修会に参加したりなどして、理解を深めている。また、日頃から虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在、必要とする人はいないが、法人内の研修会で成年後見制度について学んだ。今後も、成年後見制度について、学ぶ機会を持ちたい。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時や解約時・改正時はご家族に十分説明し、疑問点や不安点を伺い、解消できるよう努めている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者との日頃の会話の中から、意見・不満・苦情を聞きだし、ご家族は来訪時や家族会・運営推進会議で意見や要望を聞き運営に反映させている。 (外部評価) 年2回、法人介護施設の「地域交流センター」で家族会を開催されている。今年5月の家族会時には、すべてのご家族が参加されて、管理者から「医療連携体制」についての説明をされた。又、あわせて重度化対応・終末期ケア対応指針についても説明された。家族会では、みなに一言ずつでも意見を発言していただけるようお願いされている。「職員の名前がわかりにくい」とのご家族の意見で、玄関に職員の顔写真と名前を掲示するようにされたり、毎日来訪される方から「面会簿の用紙を検討してほしい」と意見があり、簡単に記入できるような様式に見直された。お話のあとは、ユニットごとに分かれて、利用者のご家族でたこ焼きを作り、おやつを食べながら過ごす時間を設けられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 日々の仕事をしている中で意見や提案を聞いたり、毎月実施している職員会議で聞く機会を設け、運営に反映するよう努めている。	
			(外部評価) 職員会議時には、職員から意見を出しやすいように管理者から「意見はないですか？」と一人ひとりに問うようにされている。施設長が事業所に来られた時には、職員に「何か困ったことはないですか？」と声をかけ聞いてくれている。職員が家庭の用事等でお休みを取りたい時には、考慮されており、職員で協力し合い働きやすい職場作りに努めておられる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 人事考課や自己評価を定期的に行い、職員の努力や実績を適正に評価できるよう努めている。人員の確保により、状況の変化にも対応できるよう整備を行っている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内での研修への参加はもちろん、介護福祉士や介護支援専門員などの資格取得に積極的に支援している。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 他のグループホームと相互訪問したり、管理者との交流を図っている。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 管理者・B棟責任者・介護支援専門員等が本人と面接し、利用に至るまでの状況や不安・希望を聞き取り、それらを職員に伝達し、情報を共有している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 管理者・B棟責任者・介護支援専門員等がご家族と面接し、利用に至るまでの状況や不安・希望を聞き取り、それらを職員に伝達し、情報を共有している。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご家族から相談を受けた時、状況に応じて併設施設等も考慮しながら、今必要としている支援を最大限できるよう対応している。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者一人ひとりのできる事を見つけ、一緒に行っている。得意分野については職員が教えてもらっている。利用者同士で昔話をされ関係を深めている。	
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族が来訪時、利用者の健康状態・日頃の生活ぶりを伝え、行事などにも参加してもらい、楽しみながら利用者を支えていく関係作りをしている。土・日の訪問が多く、昼食をご家族と外でされる事も多い。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 行事などで外出した際、生活していた場所を見て回ったり、友人・知人が訪問しやすいような体制作りに取り組んでいる。 (外部評価) 近所の方や元の職場の同僚が訪ねて来られた際には、居室でゆっくりお話ができるよう、職員は、お茶等をお出しして気遣いされている。ご家族が利用者のお孫さんやひ孫さんを連れて来てくださる時には、他利用者もとても喜ばれるようで、「大きくなったね」と抱っこ等してかわいがられるようだ。ドライブ時には、回り道をしてご自宅の近くを通過して帰ることもあり、「この裏がうちの家よ」と教えてくださることもある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を把握することで、トラブル防止に努めている。職員の言葉がけにより、利用者が孤立しないように配慮している。利用者全員が楽しめるよう心がけている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後、入院された方のお見舞いや、併設施設に入所された方の面会に行ったりしている。また、退所されたご家族から相談を受けたり関係を継続している方が多い。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日頃から利用者一人ひとりの声かけを重視し、会話や日々の様子から思いをくみ取り、ご家族に相談したりしながら本人の意向・希望を把握するよう努めている。 (外部評価) 日々の会話の中や音楽療法の回想時等を捉えて、利用者の思いや意向の把握に努めておられる。「憧れのハワイ航路」の歌から、以前ハワイ旅行に行った際の楽しい思い出を話していただき、「また行きたい」という気持ちを話された方もいる。お話されたことは、介護記録に書き留めて職員で共有されている。これまで日記を書く習慣があったが、ご自分で思い出して書くことが難しくなり、現在は、職員が、「今日は 月 日です。午前中は のレクをしましたね」等とお伝えしながら、日記を書くことを続けられるよう支援しているケースがある。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの経験や生活歴・生活環境、これまでのサービス利用の経過については、本人の会話やご家族、サービス提供事業所から情報を得よう努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 生活リズムパターンシートや介護記録から、精神的・身体的状態の観察や気づきを生かし、有する能力等の現状の把握に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者の精神的・身体的状況による変化を見極め、本人・ご家族・医師・その他の関係者などと意見交換を行いながら、介護計画を立案作成している。 (外部評価) これまで利用していた事業所等からの紹介状や居宅のケアマネジャーから得た、以前の暮らしぶりについての情報と、ご本人、ご家族の暮らしの希望を踏まえて、ケアマネジャーが介護計画を立てておられる。モニタリングは、担当職員を中心に職員が話し合いながら行い、ケアマネジャーがまとめて、計画の見直しにつなげておられる。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 記録は本人の言動や様子等をわかりやすく記載し、利用者の現状にあった計画が実施されているかを確認しながら対応し、場合によっては情報を共有し、変化に伴った支援ができるよう計画の見直しに活かしている。	
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 希望があれば、併設施設を紹介したり、併設施設の行事に参加し、交流を図るなど、本人やご家族の希望に添える環境作りをしている。	
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の方々の訪問などを通して生きがいのある生活が送れるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 併設病院と連携がとれており、本人・ご家族が希望する病院には主治医が紹介状を書いてくれ、適切な医療が受けられるよう支援している。	
			(外部評価) 母体の系列病院をかかりつけ医としている利用者が多く、受診は職員が同行されている。持病により、他の専門医を受診する場合は、ご家族が付き添われている。今年7月に、医療連携体制を整備され、週に一回、法人内の訪問看護ステーションの看護師が来られ、利用者の健康管理をされている。便秘の方の腹部聴診や、巻き爪の方の爪切り等も行ってきている。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 併設病院の看護師は利用者全員の健康状態を把握してくれている。職員との信頼関係もあり、適切なアドバイスをしてくれ、受診などに効果を上げている。また、訪問看護師から適切なアドバイスがあり、受診時、主治医に相談している。	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院時、ご家族と相談しながら、主治医・看護師・ソーシャルワーカーなどと情報交換をし、ご家族の意向を尊重しながら対応している。	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化した場合は、主治医と十分話し合い、主治医がご家族に納得するまで説明している。併設病院に、「緩和ケア病棟」もあり、本人・ご家族と話し合い、希望に添えるよう支援している。また、重度化や終末期の利用者が本人・ご家族が望めば、当ホームで最後を迎えられるよう関係者全員で方針を共有している。	
			(外部評価) 利用者の状態変化時には、主治医、ご家族で話し合いをされるが、これまでは、系列病院の「緩和ケア病棟」に入院を希望する方が多かったようだ。管理者は今後、「本人とご家族の意向をじょじょにお聞きしながら、看取りを支援していきたい」と話されていた。今年5月の家族会時には、「重度化対応・終末期ケア対応指針」の説明をして同意を取られた。看取りの希望を受け入れるに当たって、法人の訪問看護ステーションの所長を講師に招き、「重度化対応、終末期ケア対応」について内部研修が行われた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時や事故発生時の対応マニュアルがあり、救急救命法の研修会や避難訓練を実施し、質の向上を図っている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回消防署により、事業所全体で消防訓練・避難訓練を実施している。事故発生時の緊急連絡網も整備している。併設施設と緊急時の協力体制も確立できている。避難場所になっている場所まで、利用者と一緒に避難する訓練をしている。防災用としてヘルメットも常置している。	
			(外部評価) 年2回、法人全体で消防避難訓練を実施されており、併設施設と協力し合う体制を作っておられる。訓練時には、利用者も、実際に、一時避難場所である敷地内の広場まで避難された。事務所には、ヘルメットが2個用意されている。法人には、非常電源装置や衛星電話も備えておられる。避難のためのレスキューマットも準備されており、今後、使用方法の講習が予定されている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの人格を尊重し、利用者同士の関係もみながらつなぎ役をしている。利用者のできる事は本人にしてみらったり、利用者に職員がいろいろ教えてもらったり、誇りをもって生活してもらえるよう心がけている。プライバシーを損ねるような言葉かけがあった時は、話し合って質の向上を図っている。	
			(外部評価) 職員は、「逆の立場だったら」、「自分がされて嫌なことはしない」ことを心がけて、ケアに取り組まれている。朝食時の飲み物に、牛乳かヤクルトを選んでもらったり、又、おやつ時には、コーヒーか紅茶を選んでもらえるよう支援されている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日頃の会話の中から、利用者の思いや希望を聞くことにより、自己決定できるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価)  一人ひとりのペースに合わせて、ゆったり過ごして頂くよう心 がけているが、職員側の都合を優先することがある。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	(自己評価)  生活歴の把握などにより、個々の状態に合わせたおしゃれ を最大限引き出すよう努めている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価)  食事の献立は、併設施設の栄養士が立てているが、利用者 の好みや農園で収穫した作物を使ったりして、変更する事も ある。食事の支度や片付けは無理のない程度に手伝っても らっている。	
			(外部評価)  法人内施設の栄養士が立てた献立をもとにして、調理専門 の職員を配置して食事を作っておられる。職員は、利用者 と同じ食事を同じテーブルで食べておられ、利用者は、「おい しい」と感想を話しながら食べておられた。食器のことが話題 になったり、メニューの茶碗蒸しから、昔、自宅で鶏を飼って いた話へとつながり、利用者同士で懐かしいお話をされてい た。食後には、職員が運びやすいように、他利用者の食器を 集めてくださる利用者の様子が見られた。朝食にパン食を好 まれる方には、希望に応じて対応されている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価)  食事の栄養バランスは栄養士がカロリー計算をしており、食 事量・水分量は毎回記録し、チェックしている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価)  食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた口腔ケアをしてい る。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 生活リズムパターンシートの記録で、一人ひとりの排泄リズムを把握し、声かけやトイレ誘導を行っている。	
			(外部評価) 排泄記録等で排泄パターンを把握して、トイレ誘導を重ね、紙パンツから布パンツに状態が改善された方がいる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分補給、繊維質の多い食品をとるよう心掛けている。体操や散歩など運動への働きかけをしている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 日曜日以外毎日入浴してもらっている。入浴を拒否された時は、無理に誘わず、時間をおいて再度声かけしたり、翌日入浴してもらっている。また、ご家族が面会に来た時、入浴してもらえよう話してもらったり、日曜日に入浴してもらっている。	
			(外部評価) 概ね2日に一回入浴されている。一人で湯船に入るのが難しい方には、職員が介助して滑り止めマット等を使い、安全に湯船で温まれるように支援されている。利用者は、湯船に入ると、「あぁ、気持ちがあええ」とリラックスされるようだ。「入浴は嫌いよ」と言われる方で、「便が出ない」と困っておられる時には、「お腹を温めてみましようか」等と言葉をかける等して、入浴につながるよう工夫して取り組まれている。浴室の入り口には、「ゆ」と示された旗をあげて目印にされていた。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中、居室で休んでいただいたり、フロアのソファに横になっていたいただいたり、くつろいでもらっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬に日付を入れ、ミスのないように努めている。服薬者確認表を作成し、毎回、投薬した職員が確認表に捺印している。薬の目的や用法については、病院で発行してくれる説明書で理解している。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ご自分の居室の掃除をしたり、食事の手伝いや洗濯物をたたんでもらっている。庭の草引きを手伝ってくれたり一人ひとりにあった支援をしている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出の機会をできるだけ持つようにしている。初詣・花見・紅葉狩り等全員で出かけている。天気の良い日は職員と散歩に行ったり、ご家族が来られた時、ご家族と散歩されている。ご家族とドライブや喫茶店などに行かれ気分転換を図っている。	
			(外部評価) 法人の敷地内を散歩したり、秋には、落ち葉を拾って帰り、貼り絵を作ったりされている。「温泉に行きたい」と利用者が希望される時には、ご家族にご本人の希望をお伝えし、ご家族と一緒に温泉に出かけておられる。事業所で計画を立て、花見や紅葉狩り等の季節には、全員で外出されている。今月末には、紅葉狩りを計画されている。	さらに、利用者の希望やご家族の要望等もお聞きしながら、出かけてみるきっかけにされてはどうだろうか。利用者個々の以前の暮らしぶり等を探りながら、懐かしい場所や思い出の場所等にも出かけてみてはどうだろうか。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご本人の希望でお金を所持している方もいるが、お金の管理が難しい方がほとんどである。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話の希望があればその都度対応している。手紙等は家族会などで、ご家族の協力を得ながら書いてもらっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>光が強すぎないように、すだれやカーテンを利用している。季節の花を活けたり、行事の時の写真を掲示したりして、季節感が味わえるよう工夫している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ユニット個々の玄関には、ポインセチアや観葉植物、お花を飾っておられる。事業所がある法人の敷地の周りは田畑が多くあり、イネや野菜が育つ様子が見られ、季節を感じることができる。事業所の菜園には、ブロッコリー、キャベツ、白菜やサツマイモが植えられており、ユニットによっては、居間から菜園が見える。廊下の壁の掲示板には、事業所便りや行事時の写真、又、利用者と職員で作った切り絵等の作品を飾っておられた。事業所では、プードル犬を飼っておられ、犬を抱っこすることで気持ちが落ち着くような利用者もいるようだ。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>共有の場所にソファや畳を設置し、思い思いの時間が過ごせるよう工夫している。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>ご家族と相談しながら、使い慣れたものや馴染みの物を持ってきてもらっている。ご家族・親類などとの思い出が思い出せるよう写真など掲示している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>職員が用意したお花を利用者個々が自由に活けて、自室に飾っておられた。仏壇や位牌を持ち込んでおられたり、テレビ、ソファを置いている方もいる。金婚式のお祝い状や、塗り絵作品を飾っている方もいる。ご家族が、ご自分ではがきに絵を描いて送ってくださる方もあり、利用者の方は、大事にフォルダーにまとめておられた。布団をご自分で押入に片付ける方もいる。ご家族が来られた時に、ゆっくりとくつろげるようにテーブルと椅子を置いている居室もあった。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>手すりの設置や手作り案内板で表示し、自立支援に向けて工夫している。</p>	